

きここち。

Yamane_mokuzai quarterly magazine 'Kicocchi' 2017 / Summer

特集

陶芸と 木の家。



Made by
Idumi Ono

Feature!

Tougei

and Wood house

kicocochi.

家は、風土。
—木と暮らす。— 実例②

特集 陶芸と

木の家。

都会では得られなかった
暮らしの豊かさを求めてたどりついた
築25年の和風住宅。
風格のある教寄屋門と純和風の佇まい、
大好きな藤の木越しに臨む日本庭園。
陶芸家として教室や
作品づくりを手掛ける奥様が
思い描いた理想の空間がここにあった。

続き間和室は襖を取り払って陶芸教室のスペースとして使用。古い畳はそのまま生かして床にシートを敷いたのみで大きな改修はせず、味のある和風 住宅の趣を色濃く残した

五日市駅前にある利便性の高い賃貸マンションに暮らしていたO様夫婦。奥様は陶芸教室も開催している陶芸家だが、賃貸マンションでは作業ができず、教室や作品づくりは車で15分ほどかかる実家で行っていたという。そんな時ふらりと立ち寄った本屋で目にしたのが、今やりたいことができる住まいの特集。「子育てがひと段落して家で好きなことに没頭する人たちの暮らしが生き生きと描かれていました。それを見た時、私も家で陶芸ができたならこんなに幸せなことはないと思ったんです」と奥様。家探し

陶芸に没頭できる理想郷を求めて
風格ある数寄屋風住宅に出会う

を始めるとすぐに運命的な出会いが訪れた。それは築25年の山根木材の家。数寄屋門や格子戸など、純和風の佇まいに日本庭園。室内は玄関ホールを挟んで生活空間になるLDKと教室を行う和室が分離された間取り、水回りが集約された機能的な家事動線など、奥様にとって理想的な空間が広がった。「二目惚れでした」と奥様。そのため改修はクロスの張り替えと水回り設備の取り換えが中心。和室の古い畳は生かしてシート敷き、欄間など古き良き家の面影を残す。



tezawari.



Entrance

hikari.

吹き抜けのある開放的な玄関ホール。上部のFIX窓から明るい日の光が注ぐ。存在感抜群の和紙の照明は奥様がセレクトしたもの。洗練されたデザインが空間を一層引き立てる